



不均質に編み込まれた硝子繊維の複層面はガラス質のもつ透明性というマクロな性質と煉瓦のような多孔質な不透明性というミクロな性質を持ち合わせる

第21回空間デザインコンペティション「ガラス質を曖昧に組み立てる」

## clear/unclear \_ platform



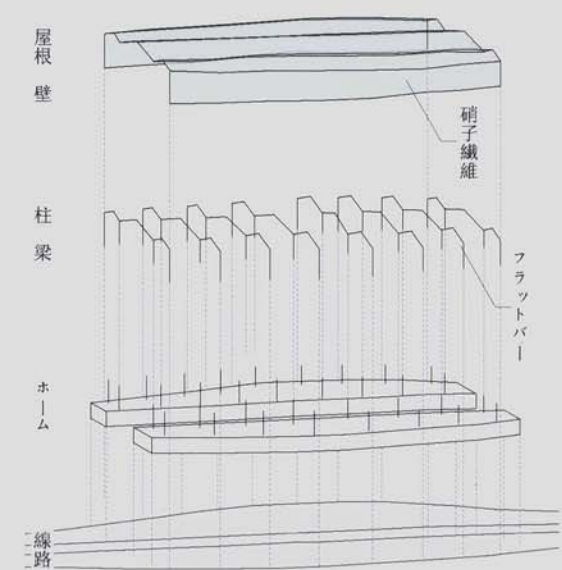
多くの人々が日常的に利用し、様々な目的をもった人々が集う公共的な場である駅のホーム。

そんな駅のホームは薄暗く、スレートの屋根は多くの駅で更新時期を向かえている。そこで、硝子繊維を不均質に散りばめて編み込んだ面により構成された駅のホームを提案する。半永久的な寿命をもつ硝子繊維はメンテナンスを必要とせず、薄暗かったホームには硝子繊維の間を乱反射し抜けてきた木漏れ日のような光が降り注ぐ。多孔質な硝子繊維の面と空気層により電車の音は吸音され、爽やかな風が通り抜ける。

そこには、子供の頃レールのカーテンに包まって、外部を感じながらも仕切られた窓際にいるような様相が漂う。

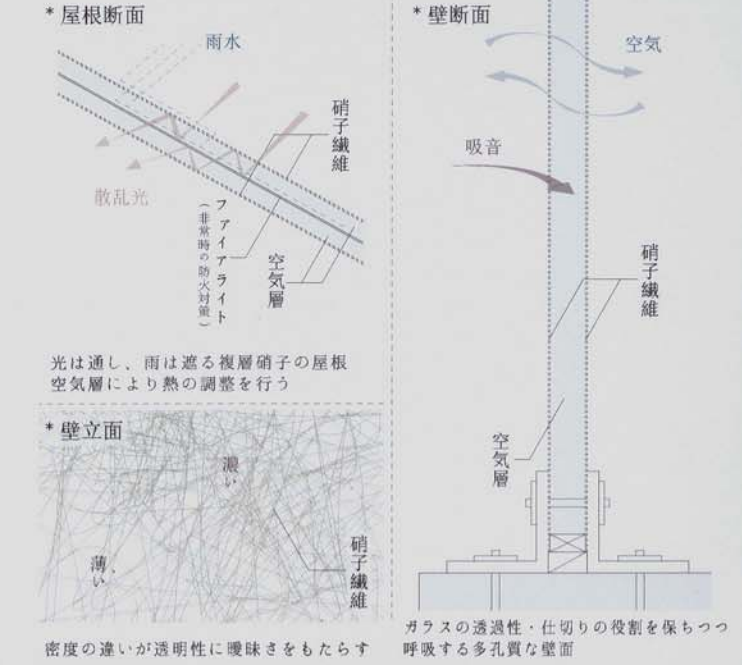
電車を待つそんな日常的なひとときに、誰しもがふと空を見上げたり、おしゃべりをしたくなる。そんな穏やかな時間が流れる、新たな公共空間として、都市の大きな縁側のような役割を担ってくれるのではないだろうか。

Method : 曖昧にだけとより快適に



屋内と屋外を行き来するホームという日常的だが特殊な環境硝子により曖昧に外部と内部とを仕切る

Detail : 硝子繊維を編み込んだ複層面



光は通し、雨は遮る複層硝子の屋根空気層により熱の調整を行う

ガラスの透過性・仕切りの役割を保ちつつ呼吸する多孔質な壁面

密度の違いが透明性に曖昧さをもたらす



閉ざされた高架は視覚的な繋がりを持ち、騒音は吸音され穏やかな時が街に流れ始める



風を通す多孔質な硝子繊維の複層面は、プラットホームへと新鮮な空気を注ぎ込み静かに揺らぐ